

みんなの知恵と力をあつめて、部落解放の「ひと・まち・くらし・なかま」づくりをすすめよう!



# 解放

第1363号 2006年10月7日

編集発行：部落解放同盟豊中支部運営委員会

あすかかい    じけん    ふ  
「飛鳥会」事件に触れて

けんしょう                      ぶらくさべつ                      ぎゃくりよう  
**検証すべきこと＝「部落差別」を逆利用しな**  
か                      ふたた                      たいしゅう                      うった                      さ  
**かったか?! 再び、大衆に訴え、ともに「差**  
べつ                      しゃかい                      と                      く  
**別をつくる社会」をなくす取り組みを!!**

あすかかいじけん    と                      かだい    おお    わたし                      かん                      か  
「飛鳥会事件」が問いかけている課題は多い。私なりに感じたことを書いてみま  
した。当然のことですが、「信念」を他者に伝え、説く立場に置かれる者の責任は重い。  
たしや    ま    こ    うご    たち    ば                      なおさら                      どう    じ    しゃ    べんめい    き  
まして、他者を巻き込み、動かす立場にあれば尚更のことである。当事者の弁明を聞  
いていないので、本来コメントする立場ではないが、解放同盟府連の見解などを読ま  
せてもらふ限り、「火のないところに 煙 はでない」ということのようなのだ。

こんかい    あすかかいじけん    ま    じ    め    かいほううんどう    かか                      ささ  
となると、今回の「飛鳥会事件」は真面目に解放運動に関わるもの、支えるもの、  
じんけんぎょうせい    たすさ                      きたい    うらぎ    おお    らくだん  
人権行政に携わるものへの期待を裏切り、大きな落胆をもたらす。

き                      ぶらく                      ぎゃくりよう                      だれ    い  
さらに気になるのは、「部落」を逆利用してこなかったかということだ。誰も言わ  
ない(これ自体が問題!)ことをいいことに、暴力団と癒着して、大阪市に迫っていた  
ごんごとうだん                      ゆちゃく    じ    じつ                      かいほうどうめい    な    おお    きす  
なら言語道断だ。その癒着が事実なら、解放同盟の名を大きく傷つけたことになる。  
あ    す    か    し    ぶ    ち    ょ    う    み    す    か                      し    て                      し    て    き                      し    ゅ    う    へ    ん                      ふ    く                      ぶ    ら    く  
さらに、飛鳥支部長 自ら(知っていて指摘しなかった 周辺も含めて)が、部落への  
さ    べ    つ    へ    ん    け    ん                      じ    ょ    ち    ょ    う                      や    く    わ    り                      は  
差別・偏見を助長する役割を果たしたことになる。

こんかい                      ほか    ば    し    ょ                      ねが                      ぶ    ら    く                      さ    べ    つ  
今回のようなことは他の場所でないことを願うが、ただ「部落」をあるいは「差別」  
そんざい    ぎゃく    かつ    じ    ゅ                      て    ん    け    ん  
の存在を逆に活用しているようなことがないかを点検  
していただきたい。

ぶ    ら    く    も    ん    だ    い                      ひ    さ    べ    つ    し    ゃ                      かい    け    つ                      さ    べ    つ                      が    わ  
部落問題は被差別者だけでは解決できない。差別の側  
ひ    び                      わ    は    い  
にいるものへ響かせるとともに、たたかひの輪に入っ  
て                      こ    う    ど    う  
もらわなければならない。「ともに」行動するというこ



と、この差別社会を「ともに」変えるということは、「ともに」する相手の声を聞かないといけない(勿論相手も同じ)。それは時間も労力もいるが、そのことがとても大切。

他者に影響を与えないと実現しない目標を掲げるといことは、そこに「他者」が介在しなければならない。そのことが再び「飛鳥会事件」のようなことを起こさないことになると思います。

## それぞれが自らを振り返る機会に！

今回の「飛鳥会事件」が問うているのは、部落解放運動だけではない。とりわけ、「人権」「環境」「平和」など自然との共生や人間らしく生きる社会、戦争がない世界を追及しているとの「看板」を掲げている組織は自らへの警鐘として受け止めるべきだと考えます。



その組織に、いつでも指摘し合える緊張感があるか。変化しようとしているか。他者の声を聞き入れているか。財務は会計あるいは1人に任せきりになっていないか。ニュースは出ているか…。流れ(世の)に逆らった運動をしている組織は、なおさらである。

## 部落解放運動が果たしてきた大きな役割。自信を持って前へ！

解放運動は差別撤廃を掲げ、「命」や「生きる」大切さを、時には厳しく時には優しく、多くの者に説いてきた。この声はこの国に住む多くの民衆の心に響いた。

この社会が差別社会であり、同じ「人間」なのに、無理やり「人間」の違いをつくり、人と人の繋がりを分断している社会に生きているんだということを部落解放運動は気づかせてくれました。

「差別」を利用するものを民の力で包囲しないとみんなが人間らしく生きていけない。70年代に多くの人が解放運動と出会いました。私もその1人だが、ともに行動できたことで多くのことを学べた。

狭山闘争の盛りあがり、無実の青年が繋がれているというレベルの共有感ではなかった。運動への参加自体が「社会正義」みたいなものを感じていたし、石川さんの置かれた状態から「差別は犯人に仕立てあげる土壌」といった認識も互いが持ち



3

とき ぜんひてい どうわぎょうせいしきく とよなか ひ さべつ ぶらく せいかつ  
時にこれまでを全否定させてはならない。同和行政施策は豊中の被差別部落の生活  
かんきょう とよなかし めん せいかつかいぜん えいきょう  
環境をよくしてきた。ここがよくなることで、豊中市民の生活改善にも影響したこ  
とお なに さべつ ゆる かんぱん おお  
とが多い。何より「差別を許さない」看板をあげていることは大きい。

## かいほううんどう あゆ みち わす 「解放運動の歩んできた道」を忘れないで！

まいにち なが さつじんじけん ねん まんにん こ じさつ さつ もじ  
毎日、ニュースに流れる「殺人事件」。1年に3万人を超える自殺…。「殺」の文字  
しんぴんしじょう の ひ じんけん ぶ しゃかい ぐたいてきげんしじょう  
が新聞紙上に載らない日がない。人権が踏みにじられている社会の具体的現象であ  
ゆが くに なん おも おお おの も はじ  
る。歪みはじめたわが国だが、「何とかしなければ」の思いを多くの者が持ち始めて  
たし  
いるのも確かだ。

じんけん む し しゃかい せんそう む じんけん じゅうりん つづ  
「人権を無視される社会は戦争へ向かう」といわれる。人権を蹂躪され続けてき  
ぶらくたいしゅう さべつ にく ひと い しゃかい じつげん せんとう た  
た部落大衆が、差別を憎み、「人として生きれる社会」の実現をと先頭に立ってた  
ぶらくかいほうどうめい あすかかいじけん き れきし けいしゅう  
かってきた部落解放同盟がこの「飛鳥会事件」を機に、よきたたかいの歴史を継承し、  
み み み おお まえ む きたい  
かつ見つめなおすところは見つめなおし、大きく前を向いてくださることを期待して  
います。

じゅうぶんじかん そうかつ おこな けいしゅう みなお あわ  
十分時間をかけて総括を行って欲しい〔継承することと見直すことも併せて〕。  
かいほうどうめい つづ うんどう じしん かいほううんどう あゆ  
解放同盟が続けてきた運動には自信をもってほしい。解放運動と「ともに」歩みたい  
ひとり わたし かか つづ おも  
1人として、「私なりの関わり」を続けたいと思っています。

た な か か す み  
【田中一己】

こにしひこく はつこうはん おおさかち さい ぼうちょう ぼうちょうけん はいふ  
●10月6日、小西被告の初公判が大阪地裁であり、傍聴にいった。傍聴券の配布があり、  
れつ だいほうてい ひと  
列にならんだが、大法廷だったこともあり、あふれた人はいなかったようだ。テレビカメラの  
さつえい あと はい しょうにしひこく せすじ しょうめん さいばんちょう  
撮影の後、入ってきた小西被告は、すらっとしていて、背筋をピンとのばし、正面（裁判長  
のほう）をみつめて立った。このふつうの「おっちゃん」のうらには、かくされたもうひとつ  
かお けんさつかん ぼうとうちんじゅつ あき  
のこわもての顔があることがあとの検察官の冒頭陳述でつぎつぎに明らかになっていった。  
じはん じごろ じかん き で しょうにしひこく き そじじつ  
9時半にはじまり12時頃までつづいたが、1時間ほど聞いて出た。小西被告は起訴事実  
ゆうざい みと さいばん かいよてい らいしゅん  
については「まちがいありません」と有罪を認めた。裁判は12月15日まで5回予定され、来春  
はんけつ ひ しゅざい まいにちしんぶん ゆうかん  
には判決がでるようだ。●この日もたくさんのマスコミが取材にきていたが、毎日新聞の夕刊  
み いちめん とくしゅう こんごう  
を見てびっくり。一面トップと2面、12面、13面と「特集」あつかいだった。●今号で  
あすかかいじけん しゃみんどう だいす たなか か  
は「飛鳥会事件」について社民党とタイガース大好きの田中さんに書いてもらった。わたした  
みみ かたむ おも  
ちの「なかま」がどのようにうけとめているのか、耳を傾けたいと思う。（ささき）

しゃしん あすかかいじけん かんが  
■写真は、10月3日の「飛鳥会事件を考える」のときのようにす

# あすかかいじけん かんが 「飛鳥会事件を 考 える」

じんけんぶんか きょうかい  
10月3日、人権文化まちづくり協会の2006  
ねんど だい かい ぶらくもんだい いま けんきゅうかい あすかかいじけん  
年度・第1回「部落問題は今、研究会～飛鳥会事件を  
かんが ふれん しよき  
考える～」がおこなわれ、かつて府連の書記長をつ  
とおがまさゆき じけん はいけい もんだいてん  
とめた大賀正行さんが「事件」の背景や問題点、こ  
うんどう かた はな  
れからの運動のあり方などについて話されました。



ひ おおが よそう こ あつ うんどう いっせん しりぞ ひと おも  
この日の大賀さんは予想を超えて熱く、とても運動の一線を退いた人とは思えま  
げんえき ほう さ つうかん  
せんでした。現役のわたしの方が冷めていることを痛感させられるくらいでした。そ  
げんじょう たい き き いしき つよ おも  
れだけ、現状に対する危機意識が強いのだと思います。それはとりもなおさず、  
うんどうけいけん なか つちか うんどうかん おも とくべつそちほう  
これまでの運動経験の中で 培った運動感によるものだと思います。「特別措置法」  
い こ うんどう し うえ ある うつわ ちが  
以後の運動しか知らず、ルールの上を歩いてきただけのわたしたちとは 器が違うの  
かもしれません。

かんが ひとり げんどう ぜんたい ひょうか  
いろんなことを考えさせられましたが、「たった一人の言動が全体の評価になる」  
ひとり ふ ころえ しゃ ひと ふ しょうじ  
ということ、つまり、たった一人の不心得者であっても、たった一つの不祥事で  
ぶらく  
あっても、「やっぱり、部落は…」とひとくくりにされてしまうということです。部落  
もんだい もんだい わたし ころ きざ あらた  
問題とはそういう問題なんだということを 私たちは心に刻まねばならないと改め  
おも  
て思いました。

あやま さ じじつ もんだい あやま  
しかし、過ちは避けがたいのも事実です。でも、問題は過ちをおかしてしまった  
たいおう ぎ たにん  
ときの対応です。とかげのしっぽ切りをしたり、他人のせいにしたりせずに、わがこ  
ひ う だいじ おも あすかかいじけん い うんどう  
ととしてどれだけ引き受けるのかが大事だと思います。飛鳥会事件で言えば、運動と  
むえん こにしひこく え せ どうわこうい ぶらくかいほううんどう ぶらく  
は無縁の小西被告によるエセ同和行為であったとしても、部落解放運動のなかで部落  
かいほうどうめい ばしょ お め  
解放同盟がコントロールすべき場所で起きています。このことから目をそむけず、  
ちやくし うしな しんらい しんよう かいふく え  
直視することなくして、失われた信頼・信用の回復はあり得ません。

いけんこうかん ば つう ぶらくもんだい み ひと ひろ  
こうした意見交換の場を通じて部落問題を見つめる人のつながりがじわっと広が  
ついきゅう おも ひと  
っていくことをさらに追求していきたいと思います。「10.3」はその一つでもあ  
へんか いっき ひと つ かさ  
りました。もちろん、変化は一気にはいきません。一つひとつ積み重ねていくしかな  
い み はじ おも  
く、その意味では「10.3」を始まりにしたいと思います。

ほうこく さ さ き かんじ  
【報告：佐々木寛治】

# か つ ど う よ て い

日	曜	とりくみ	じかん	ばしょ
10	火	トークマインド	10 時	人権まちづくりセンター
		楽しいピンポン同好会	10時	人権まちづくりセンター
		志の山会	1 時	いこいの家
		おどりサークル	6 時	いこいの家
		全同教大会うちあわせ	7 時	人権まちづくりセンター
11	水	ペン字「なかよし会」	10 時	人権まちづくりセンター
		太極拳同好会	10 時	いこいの家
		カラオケ同好会	1 時 30 分	いこいの家
		中国文化同好会	7時	いこいの家
12	木	さわやか体操	9 時 45 分	いこいの家
		パソコンくらぶ	6 時 30 分	人権まちづくりセンター
		よみかききょうしつ	7 時 30 分	人権まちづくりセンター
		支部運営委員会	7 時 30 分	人権まちづくりセンター
13	金	参加型食事会	9 時 30 分	人権まちづくりセンター
		楽々工房「ほっとス」	1 時 30 分	いこいの家
		民謡サークル	5 時	いこいの家
14	土	おどりサークル	1 時 30 分	いこいの家
16	月	ヨガサークル	10 時	人権まちづくりセンター
		ちぎり絵同好会	10 時	人権まちづくりセンター
		さくらの会	12 時	いこいの家
		カラオケサロン	1 時 30 分	いこいの家
		パソコンサークル	2時	人権まちづくりセンター

人権相談は、 毎週火・木・土 ごご1～5時 人権まちづくりセンター

進路相談は、 毎週月・水・金 ごご5～7時 人権まちづくりセンター

●テレビ番組のおしらせ・NHK [関西クロスアップ]

「岐路に立つ同和 行政～大阪市見直しの波紋」(再放送)

**10月8日(日)2チャンネル ごご5じ～5じ25ふん**

●第2回「人権サロン」→10月20日(金) ごご7じ～

「今だから問う！部落とは？部落差別とは？」 角岡伸彦さん